

平成26年度の育成目標について

【育成目標】

子どもの意見表明・参加の促進

札幌市では、平成21年4月に「子どもの権利条例」を施行し、子どもが生きる力や創造力を身につけ、自立した社会性のある大人へとたくましく成長できるよう、市と市民が一体となって取り組みを進めることを明らかにしています。

今年3月には「子どもの権利に関する推進計画」が策定され、地域でもより具体的な取り組みを推奨しています。

私たちは、その計画の中にある四つの基本目標の一つである「子どもの意見表明・参加の促進」を地域の子どもたちの育成目標として実践することを提案します。

【どのように実践するのか】

各団体で取り組んでいる子どもを対象とした行事などで、この育成目標を意識した実践活動を行います。

大人がお膳立てした行事に子どもが参加するだけという運営方法を卒業し、「行事を通じて子どもを育成していく」という視点を持ってください。

具体的には、

- ① 計画の段階から子どもの意見を聞いてください。
- ② ポスターなども子どもに考えさせてください。
- ③ 準備や当日の運営に子どもたちに役割を与えてみてください。
- ④ 行事終了後には子どもからアンケート、感想、反省点などを聞いてください。

実践報告シートは別紙のとおりで、年度末の全体会議（2月開催）で検証します。

昨年度は町内会、PTAからの実践報告が少なかったため積極的に働きかけます。

【過去の事例】（抜粋）

☆北八軒第3, 4, 5町内会 合同クリスマス会

計画から運営まで全て小学生が行う。町内会長など大人から大変好評でした。

☆はちけん夢あかり 青少年育成委員会

行事名称木枠24個のちょうちんを八軒中美術部生徒が作成。

☆室内運動会 連合町内会青少年体育部

小学生スタッフ数名が種目、運営方法、賞品、参加賞を決めた。

☆ゲッシーカーニバル 八軒北児童会館

スタッフの子どもたちが前年の反省をもとに計画、おばけなどの役割も決める。

☆演劇公演活動 札幌西子ども劇場

高学年の子が低学年の子をサポートしたり、話し合いをまとめる力が養われている。

☆いなば、ひまわり、西町睦 合同町内会 ローソク出せ

子どもたちが短冊を書いたり、リーダーが小さい子を誘導するなど自発性が育まれている。